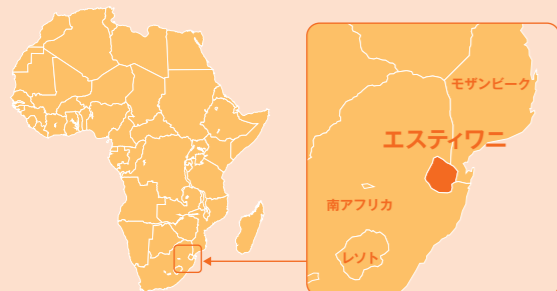


あのチャイルドはいま？

エスワティニの テムベラさん



支援を受け、大人になったテムベラさん

支援を受け、大人になったテムベラさん

かつて支援を受けたチャイルドたちが成長し、自分たちの足で立ち、夢を追いかける姿を見ることほど、心温まる光景はありません。エスワティニ出身、現在21歳のテムベラさんは、まさにそんな一例です。2021年までチャイルド・スポンサーシップの支援を受けたテムベラさんは、今、大学2年生として学び、将来は高校で家庭科・生活科の先生になるという夢に向かって日々努力を重ねています。

テムベラさん自身が語るように、彼女の人生において、チャイルド・スポンサーシップとの出会いは、「支援」を超える重要な意味を持っていました。「今の私がいるのは、スポンサーさんの支援と愛情、励ましのおかげです」とテムベラさんは感謝の気持ちを語りました。チャイルド・スポンサーシップを通してさまざまな支援を受けたことや、スポンサーとの出会い、心温まる手紙のやり取りは、彼女にとって大きな支えとなりました。

今、テムベラさんは将来に向けて大きな夢を抱いています。「私は高校の先生になり、子どもたちを教えながら、いつか誰かのスポンサーになりたいと考えています。スポンサーさんから受けた愛と支援を、次世代にも伝えていきたいのです」と彼女は語ります。

「いつか、私も誰かのスポンサーに」

テムベラさんは、チャイルド・スポンサーシップがいかにチャイルドの人生を変え、未来を切り拓く力を持っているかを示しています。チャイルド・スポンサーの皆さまからの愛と支援がよりよい世界を作ります。

あなたも、子どもたちに喜びを届けませんか？

チャイルド・スポンサーシップのお申し込みは、お電話またはWEBからご連絡ください。また、ご家族やご友人にもぜひチャイルド・スポンサーシップをご紹介ください。

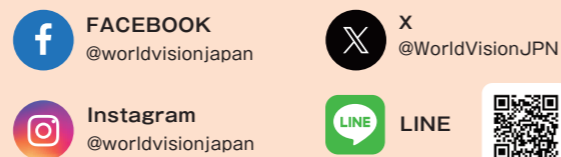


テムベラさんと且田スタッフ (2024年)

📞 電話でのお申し込み 03-5334-5351 (平日10:00-17:00)

🌐 WEBからのお申し込み
ワールド・ビジョン

公式 SNS でもチャイルドのストーリーや支援地域の様子を発信中！ぜひフォローしてください



World Vision News



特集1：難民の約半数が子どもたち
帰る場所を失った子どもたち

特集2：チャイルド・スポンサーシップ
スタッフ出張記 in グアテマラ

支援のご報告・お知らせ
能登半島地震緊急支援
「サマースクール2024」参加者募集中！

6月20日は「世界難民の日」です



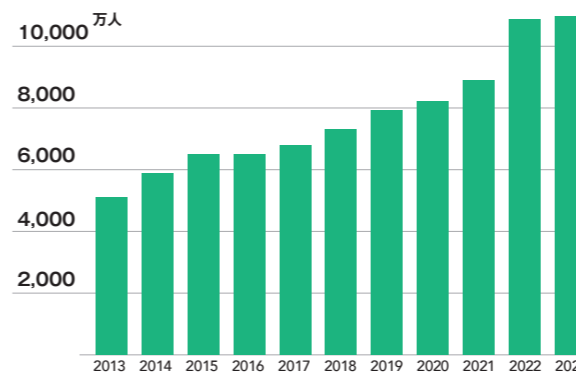
帰る場所を失った子どもたち

難民・避難民の子どもたちの命を守り、回復を支え、未来を築く

シリア、アフガニスタン、ウクライナ、南スーダン、ミャンマーなど、世界各地で長期化する紛争が増え、難民・国内避難民の数は増加しています。2022年末には初めて1億人を超え、その後も増え続けています。2023年9月末時点で、紛争や迫害で家を追われた難民・国内避難民は、1億1400万人を超えました。そのうち約41%が18歳未満の子どもたちで、帰る場所を失っています。

出典：UNHCR: Mid-Year Trends Report 2023 および Global Trends 2022

故郷を追われた人々の数は過去10年間で倍増しました(2013年-2023年)



出典：UNHCR: Mid-Year Trends Report 2023

難民と国内避難民の子どもたちが直面するリスク

ワールド・ビジョンが毎年実施している難民と国内避難民の家庭を対象とした調査(2023年)では、子どもたちは、より一層厳しい状況にあることがわかりました。ほぼ3分の1の家庭が子どもを学校に通わせることができていません。教育費を完全に賄うことができる家庭はわずか11%であり、2022年の31%から減少しています。さらに、避難民キャンプの子どもたちは、ほかの場所に暮らす子どもたちと比べて、強制労働を強いられるリスクが2倍となることがわかりました。多くの家庭では収入も食料も得ることができません。過酷な状況下で生き抜くために、子どもたちは学校をやめさせられて働いたり、結婚を強要させられたりすることを余儀なくされています。

出典：World Vision (Invisible and forgotten: Displaced children hungrier and at more risk than ever)



「世界難民の日」とは？

6月20日の「世界難民の日」は、難民の保護と支援に対する関心を高め、世界各地で続けられている難民支援活動への理解を深めるために、2000年12月国連総会で制定されました。ワールド・ビジョン・ジャパンは、「世界難民の日」に合わせて、毎年6月に、本紙(ワールド・ビジョンニュース)にて、難民・国内避難民の子どもたちについて特集しています。



次のページでは、帰る場所を失った難民・国内避難民の子どもたちの声をお伝えします。

紛争の影響を受けている子どもたちからのメッセージ

このページは、お子さまからおとな、日本語を勉強中の方まで幅広く多くの方に読んでいただけるよう、漢字にルビを入れ、やさしい日本語を使用しています。

「パパ、ぼくは、まだ死にたくないよ」



チェルヌイフさんと息子のヘオルヒーくん(右)、
チェルヌイフさんと生徒たち(左)

ウクライナ出身のチェルヌイフさんは、先生としてジョージアで子どもたちに勉強を教えています。「紛争が激しくなり、真夜中にサイレンが鳴りました。6歳の息子に何が起きているか説明すると彼は泣きながらこう言いました。“パパ、ぼくは、まだ死にたくないよ”。私の心は張り裂けそうでした。死ぬには、あまりにも早過ぎます。私にとって、人生で最も大切な存在は、子どもたちです。ウクライナの人々は自分の子どもを育てると同じように、ほかの子どもたちも大切に世話をします。ジョージアに逃れたウクライナの子どもたちを学校で教えている時、私はすべての子どもを娘・息子のように大切に思っています。紛争が終わり、私たちの故郷ウクライナに戻る日が一日も早く訪れるよう願っています」



「働いて貯めたお金はテントの雨漏りを修理するために使いました」テントの前に立つヤザンくん

「ぼくが持っているはずの教育を受ける権利を求めます」

「どうしてぼくは学校に行けないのだろう。どうして仕事をしなければならないのだろう」そう話すのは、シリアからレバノンに逃れてきたヤザンくん、12歳です。山を越え、土砂降りの中、レバノンへやってきました。入学は認められず、重い荷物を運ぶ仕事をして家計を支えています。「シリアで

は友達と遊んだり、勉強をしたりしていました。今は、遊ぶことはできません。仕事はとてもつらいです。ワールド・ビジョンは危険な場所や病気から守る方法、怒りの感情をコントロールすることなどを教えてくれました。ぼくは学校へ行って勉強がしたいです。自分は字を読み書きして、学ぶことができるのだという自信を持ちたいのです。そして、エンジニアになり、シリアと世界のすべてを、最初から作り直したいです。ぼくは、今、まるで自分は教育を受ける権利を持っていないかのように思えますが、教育を受ける権利を持っているはずですよ」

教育支援によって失われた時間と自信を取り戻す

イラクで暮らす11歳のアムナちゃんは、ワールド・ビジョンが実施するアラビア語の補習クラスに参加し、読み書きが上手になりました。「アラビア語を勉強して、文字を覚えています。学校の授業の中で、アラビア語が一番好きです。大きくなったらお医者さんになりたいです」と自信を持って言えるようになりました。紛争のために、何年にもわたり教育を受けられなかった子どもたちが補習クラスに参加して、勉強の遅れを取り戻しています。教育支援はアムナちゃんのように子どもたちに笑顔と将来の夢をもたらしています。



補習クラスの様子(左)、将来の夢を語るアムナちゃん(右)

難民支援募金のご案内



紛争下の子どもたちの教育を支え、将来の可能性を広げます

難民・避難民の子どもたちが教育を受けられるように、学びの環境を整え、学校運営や教職員の採用を支援します。例えば、5000円ではバッグ、ノート、筆記用具などの学用品セットを子ども5人に提供できます。



QRコードを読み込むと募金のお申込みページが開きます



チャイルド・スポンサーシップ スタッフ出張記 in グアテマラ



支援事業部
プログラム・
コーディネーター
神田聖光

皆さん、こんにちは！ワールド・ビジョン・ジャパン（WVJ）支援事業部の神田です。この度チャイルド・スポンサーシップの支援地域であるグアテマラに出張し、現地の子どもたちや人々との対話、活動に携わるスタッフとの交流を通じて、支援地域の現状を直接見聞きしてきました。本記事では、2日間にわたって訪れたチセク支援地域の視察の結果をご報告します。壮大な自然や子どもたちの笑顔、また人々が直面する厳しい生活状況など、写真だけではお伝えしきれない地域の様子は、ぜひQRコードから動画をご覧ください。

チセク地域でWVJが支援を行う理由

国の人口の約4割を占めるマヤ系先住民は、スペインによる植民地時代に土地を奪われ、暮らしづらい山岳地帯などへと追いやられたという経緯があります。特にマヤ系ケチ族の人々が暮らすチセク地域は、住民の大多数が国の公用語であるスペイン語を話せないため、教育や就業の機会が制限され、貧困から抜け出すことが非常に難しいという状況に置かれています。



Day 1

行程	
05:00	起床
06:00	グアテマラシティからチセク地域に移動
15:00	事業地到着、地域の人々による歓迎
17:00	現地スタッフとミーティング
19:00	宿に移動（車：約3時間）



支援地域に到着した神田スタッフと、集まってきた村の人々



山間部にあるチセク地域へと向かう道

チセク地域に移動

首都グアテマラシティから、約300キロ、車で約8時間の場所にあるチセク地域。プログラムマネージャーを務めるアルマ・ガルサはWVの支援を受けた元チャイルドで、地域支援の大切さを熟知しています。彼女とともに働くスタッフは、スペイン語とマヤの先住民言語であるケチ語のバイリンガルです。若い世代から地域の開発に長年携わってきた経験豊富なベテランまで、熱意を持った人材が揃っています。

Day 2

行程	
06:00	起床
07:30	現地の保健省員と朝食兼ミーティング
09:00	カンデラリア・ヤリカ地区に移動（車：約3時間）
12:00	地域の人から歓迎を受ける
13:00	地域のリーダーとミーティング
14:00	地域住民の家を訪問
15:00	チャイルドにご支援者からの手紙を渡す
17:00	宿に移動（車：3時間）
22:00	食事、就寝

地域住民の家を訪問

ほとんどの家庭には電気や水道が通っていないため、湧き水や貯めた雨水を生活用水・飲用水として使っており、下痢や食中毒を引き起こす原因となっています。家の中では土がむき出しの床で火を起こして料理をする家庭も多く、衛生面・安全面の懸念があります。



地域で見られる一般的な家屋



訪問した家庭の調理スペース

カカオドリンク

チセク地域では、カカオドリンクがよく飲まれます。香りはチョコレートですがさほど甘みはなく、独特の味わいのある飲み物です。



独特な味わいのカカオドリンク

地域の人々による歓迎

2日目はチセク地域にある別のコミュニティ、カンデラリア・ヤリカ地区を訪問しました。人々は私のことを「自分たちの地域を良くしてくれる、日本のご支援者の代表」と捉えていたようで、子どもたちは色鮮やかな民族衣装を着て、たくさんの歌や踊りを披露してくれました。



子どもたちの踊りで歓迎される神田スタッフ



歓迎の様子は
こちら（動画）

チャイルドへの手紙

日本のご支援者からの手紙を受け取ったハリー・ダニエルくん。書かれていることを説明し、手紙を渡すと、少しはにかみながら「ありがとう」と言ってくれました。



手紙を受け取り、笑顔のチャイルド

出張を振り返って

支援地域を訪問することは、現地の課題や活動の確認に加えて、人々が大切にしている伝統や文化を間近で見聞きし、対話をする貴重な機会です。無邪気に走り回る子どもたちを見ながら、「この子たちが希望を持って豊かな人生を歩むために、何ができるだろう」と改めて考えさせられました。「チセク地域のために働くことは、私にとって単なる仕事以上の意味があります」と語っていた頼もしいスタッフたちとの対話を経て、これから日本の皆さまと一緒に地域が変化していく様子を見ていくことが、一層楽しみになりました。



2日間の出張の
全容はこちら
（動画）

能登半島地震緊急支援

1月1日に発生した令和6年能登半島地震を受け、ワールド・ビジョン・ジャパン (WVJ) では1月7日からスタッフを石川県に派遣し、初動調査を開始しました。金沢市、七尾市、輪島市等を中心に、様々な方のご協力を得ながら、その時々が必要とされる子ども支援の活動を展開してまいりました。皆さまから寄せいただいた寄付により、3月末までに1,456名の子どもを含む3,265名の皆さまに支援をお届けすることができました。

子ども向けイベントの開催



例えば、発災から約2週間が経ち、学校の再開目途が立たず、余震も続き、長引く避難生活の中、子どもたちを笑顔にしたいと地域から依頼を受けたWVJは、関係者と連携し、七尾市と輪島市の学校や避難所など4カ所で、子ども向けイベント「わくわくデー」を企画し、依頼の翌週には開催が実現しました。

1月20日から3日間にわたり開催した「わくわくデー」

学校等の再開に向けて

学校等が徐々に再開される中、必要な物資が不足していたことから、WVJは関係者と連携し、七尾市と輪島市の幼稚園・保育園・こども園・学校・児童クラブ等の施設に、時計や掃除用具などの備品・消耗品、防災頭巾やノートなどの学用品、飲料などを迅速にお届けしました。



子どもたちがのびのびと遊べるように



学校が避難所や災害支援拠点となり、子どもたちが運動場や体育館を使えず、体を動かして遊ぶことができないという声を受け、WVJは関係者と調整を重ね、体育館が使用可能になったタイミングで、放課後や休日の遊び場「みんなで遊ぼう！」を開催しました。

災害時に子どもの権利を守るために

これらの活動の中心には、「災害時にも子どもの権利を守る」というWVJの思いがあります。すべての子どもが持つ「子どもの権利」には、学ぶことや遊ぶこと、安心して休むこと、自分を表現することなどが含まれますが、これらは特に災害時の混乱の中では守られにくくなりがちです。どうしたら守られるか、何が不足しているのかを、子どもたち、そして子どもの周りのおとなや地域社会の声を聴き、外部からの支援者として一時的に不足を補うことが、災害支援におけるWVJの役割であり、基本姿勢であると言えます。

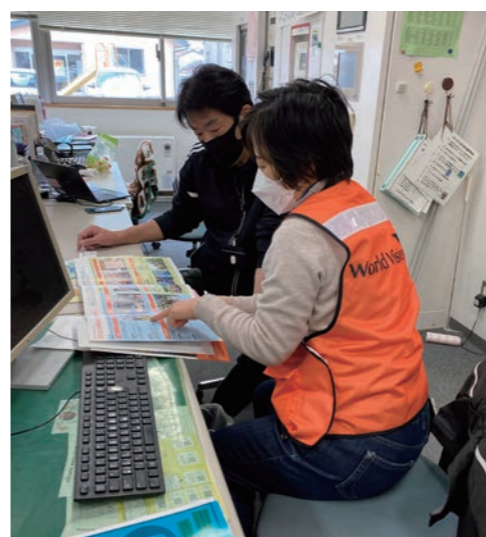


WVJは、災害時に限らず、日頃から国内の子ども支援を行っています。誰もが地域の中で安心して過ごすための放課後の子どもの居場所づくり、子どもを支える重要な社会資源である子ども食堂・学習支援・民間シェルター等への助成金提供、経済的理由で進学や教育の選択を諦めないための入学祝い金の贈呈、日本社会への子どもの権利の啓発など、多岐にわたる活動を日々行っています。



東京都中野区で放課後に開催している子どもの居場所の様子

子どもの権利の実現は、社会全体で取り組まなくてはなりません。WVJの国内子ども支援活動がその一助となるよう、できることから精一杯取り組んでまいります。



「ワールド・ビジョン・サマースクール2024」参加者募集中!



これまでに開催したサマースクールの様子



参加型プログラムを通して親子で楽しく学びを深めます

ワールド・ビジョン・ジャパン (WVJ) は、日本の子どもたちが世界の現状をよく理解し、積極的に国際協力に参加していくことを願い、未就学児から大学・大学院生まで幅広い年齢層を対象として「グローバル教育」を実施しています。スタッフが教育機関を訪問し、授業でお話をさせていただく「講師派遣」や児童・生徒の皆さまを WVJ 事務所にお迎えする「事務所訪問」の受け入れをしています。また、毎年夏休みには小学生を対象に世界のことを知り、考える参加型イベント「ワールド・ビジョン・サマースクール」を開催しています。今年は、バーチャルツアーでケニアの子どもたちに会いに行くオンラインイベント、「水汲み」や「手洗いチェック」が体験できる対面イベントを開催します。いずれも自由研究にぴったりな内容です。この夏、お子さまが世界に目を向け、興味を持つきっかけづくりをしてあげませんか。皆さまのご参加をお待ちしています。



親子で力を合わせて「水汲み」体験

開催概要

オンラインイベント

日時: 7月25日(木) 13:30-15:00 会場: Zoom

対面イベント

日時: 7月26日(金) 10:00-11:30

会場: WVJ事務所 (中野区本町 1-32-2 ハーモニータワー 3F)

日時: 7月27日(土) 10:00-11:30

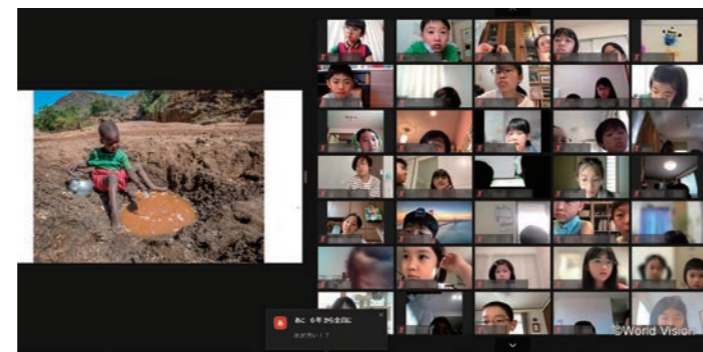
会場: LMJ 東京研修センター 5LL 会議室 (文京区本郷1丁目11-14 小倉ビル 5F)

いずれも対象は小学生親子、参加費無料
協力: 塩野義製薬株式会社、シオノギヘルスケア株式会社
後援: 中野区教育委員会、文京区教育委員会

詳細・申し込みはこちら



発表や話し合いをする経験が夏休みのお子さまの成長につながります



オンラインイベントでは動画や写真を中心にクイズや話し合いの時間も設けています



詳しいパンフレット (無料) もご用意しています

“人生の証”を、未来につなげる 遺産や相続財産を寄付する方法があるのをご存じですか?

「遺贈」は、遺言によって財産の一部またはすべてを特定の個人や団体に無償で譲与することです。また、故人のご遺志を受け継いだ相続人が相続財産から寄付することもできます。ワールド・ビジョン・ジャパン (WVJ) は十数年にわたり、これらのご寄付をお受けしています。お気軽にお問合せください。

パンフレットのご請求・お問い合わせは **TEL: 03-5334-5355 (平日10:00-17:00)**
「遺贈・相続財産による寄付担当」まで **Eメール: donation@worldvision.or.jp**

インスタライブ 毎月1回開催中! 「ここでしか聞けない話」をしています

ワールド・ビジョン・ジャパンの公式Instagramでは、月に1回ライブ配信を実施しています。「ザ・危険な国」中米・ホンジュラスに出張したスタッフ3名からの報告や、東日本大震災の「子ども支援」を体験して今はアフリカで活躍する大学生へのインタビュー、玉川聖学院中等部・中等部の学院長でいらっしゃる安藤理恵子先生へのインタビュー等、「ここでしか聞けない話」が繰り広げられています! 録画動画もYouTubeで公開中ですので、ぜひご覧ください。



最新のイベント情報、過去の録画動画一覧はこちら



2024年1月インスタライブ 災害時の「子ども支援」はどうだった?



2023年10月インスタライブ 「ザ・危険な国」ホンジュラス出張報告

在宅翻訳ボランティアの募集を再開しました (チャイルド・スポンサーの方限定)

世界中のチャイルドからの大切な手紙を翻訳する、やりがいと責任のある活動です。まずは資料をご請求ください。皆さまのご参加をお待ちしています。

詳しいご案内・資料請求はこちら



能登半島地震緊急援助活動がメディアで紹介されました

8-9ページで紹介している、子ども向けイベントの開催、学校での遊び場の運営、心理的応急処置 (PFA) 研修の実施等の活動や、子どもたちの心のケアの重要性やポイントに関する WVJ スタッフのコメントをご紹介いただきました。これらのメディア掲載を通して、災害時の子ども支援の重要性の理解促進に繋がったことを願っています。

以下メディア (一部) の記事や番組でとりあげられました。

NHK、MRO 北陸放送、福島中央テレビ、日本経済新聞、毎日新聞、読売新聞、北國新聞、北陸中日新聞、時事通信、教育新聞、クリスチャン新聞、キリスト新聞、Yahoo ニュース、47 ニュース、エキサイトニュース、goo ニュース、BIGLOBE ニュース、TBS ニュースデジ

世界に思いをはせて Vol.14. 事務局長 木内(きない)真理子

3月にグアテマラに行ってきました。出発前、「コーヒーの国に行くのね」という人がたくさんいました (美味しかったです!)。でも日本であまり知られていない側面もありました。かつて豊かな文明を誇ったマヤ系先住民がいて、その子孫の多くが今、貧困に苦しんでいるのです。植民地時代、自分の肥沃な土地を追われ、痩せた土地への「移住」を余儀なくされた人々と子どもたち。ほぼ10人にひとりが出稼ぎで家計を支える現実。WVJ がみなさまと始めたチャイルドスポンサーシップ事業は、この国内避難民でもある人々の生活の再建と明日への希望を取り戻す試みでもあるのです。



グアテマラ訪問時に子どもたちと (筆者左から2番目)